


















■ 使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■ 使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)マックスバリュ城野 新築	BEE	0.5	BEEランク	B-	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.8 /5	  	がんばろう 
2 地球温暖化対策の推進	3.4 /5	   	ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	1.6 /5	 	がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5	  	ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 2.9	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.5	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.1
<自由記述>		<自由記述>	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.4	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.8	LR2/ 1.1 節水	スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.7	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2
<自由記述>		<自由記述>	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価)	
<自由記述>		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		0.88	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	
		0.72	
		外構緑化指数	
		5 %	
		建物緑化指数	
		20 %	

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)マックスバリュ城野 新築工事	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市小倉南区富士見一	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,640 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年4月 予定	評価の実施日	2022年10月10日
敷地面積	9,114 m ²	作成者	高地俊成
建築面積	3,346 m ²	確認日	2022年10月11日
延床面積	6,371 m ²	確認者	久保隆一

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.5 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境品質 (縦軸) 0, 50, 100 環境負荷 (横軸) 0, 50, 100 BEE = 0.5 (赤い点)</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+</p> <p>0 46 92 138 184 230 276 322 368 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 1.8</p> <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0</p> <p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.7</p> <p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 2.9</p> <p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.9</p> <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.7</p> <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
階高をできるだけ低く抑え、圧迫感を感じさせないような建物とした。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
陳列棚の通路幅を1.5m以上取ることでゆとりのある空間とした。	多目的トイレにオストメイトを設置した。	建物出入口付近に車いす用の駐車場を配置した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外壁全体を断熱し、省エネ適判にも適合させた。	節水コマ付きの水道蛇口とした。	室外機置場を屋外に設けた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)マックスバリュ城野 新築工事

 ■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.1
Q1 室内環境					0.40		-	1.8
1 音環境				2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		-		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		-		3.0	1.00	-	-	
2 界壁遮音性能		-		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-	
1.3 吸音		-		1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				1.1	0.35	-	-	1.1
2.1 室温制御		-		1.3	0.50	-	-	
1 室温		-		1.0	0.50	-	-	
2 外皮性能		省エネ適判対象		3.0	0.17	-	-	
3 ゾーン別制御性		-		1.0	0.33	-	-	
2.2 湿度制御		-		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		-		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.0	0.25	-	-	2.0
3.1 昼光利用		-		3.0	0.50	-	-	
1 昼光率		-		-	-	-	-	
2 方位別開口		-		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-		3.0	1.00	-	-	
3.2 グレア対策		-		-	-	-	-	
1 昼光制御		-		3.0	-	-	-	
3.3 照度		-		-	-	-	-	
3.4 照明制御		-		1.0	0.50	-	-	
4 空気質環境				2.3	0.25	-	-	2.3
4.1 発生源対策		-		3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		-		3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		-		2.0	0.30	-	-	
1 換気量		-		1.0	0.50	3.0	-	
2 自然換気性能		-		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理		-		1.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-		1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		-		1.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0
1 機能性				3.0	0.40	-	-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ		-		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		-		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		-		2.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		-		3.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		-		2.0	0.33	-	-	
3 内装計画		-		3.0	0.33	1.0	-	
1.3 維持管理		-		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		F☆☆☆☆の材料を採用している。		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		-		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		-		3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		-		3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			3.1	0.30	-	-	3.1
	3.1 空間のゆとり		3.4	0.30	-	-		
		1 階高のゆとり	階高H=3,500とした。	5.0	0.60	-	-	
		2 空間の形状・自由さ	—	1.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		—	3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-		
	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-		
	3 電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-		
	4 通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-		
	5 設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-		
	6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-		
	Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	1.7
	1	生物環境の保全と創出		—	1.0	0.30	-	-
2	まちなみ・景観への配慮		—	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	-	2.9
1	建物外皮の熱負荷抑制		—	2.0	0.20	-	-	2.0
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		省エネ適判に適合させた。	3.6	0.50	-	-	3.6
4	効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	1.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	-	2.7
1	水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1	節水	—	3.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.11	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.22	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	-	-	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	—	3.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	1.00	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		-	-	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	-	-	-	-	
	3	冷媒	CO2冷媒冷凍機	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO279%	3.8	0.33	-	-	3.8
2	地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
	2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用せず、電気給湯器を使用した。	5.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	2.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	適切な量の駐車・駐輪スペースを確保した。	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	0.33	-	-	
	2	振動	—	3.0	0.33	-	-	
	3	悪臭	—	3.0	0.33	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	1.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	3.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	